

今年の4月1日で、秋田に引っ越してきて3年目になります。あっという間ですね。

秋田県立聾学校を卒業後、すぐに東京へ行き、婦人服専門の会社で縫製の仕事を続けました。その間、経営不振等により会社を転々とし、仕事を続け、東京で暮らし始めてから50年経ちました。その後、身体の都合で秋田に帰ってきました。果たして秋田に帰ってきて良かったのか、まだ実感がありません。

東京生活が長かったので、東京には友だちが多く、交流が深かったです。秋田に帰ってきて、東京とはまるで違う様子で、秋田の状況も以前とは変わっていて、出かける方法もわからなかったのですが、自分から積極的にいろいろな所へ自転車で出かけてみると発見もあり、楽しくなってきたと感じています。

東日本大震災がおきてから、今年で11年になりました。震災は、私が東京に住んでいた頃で、突然大きな地震が起きて会社も揺れ、社長に呼ばれて走って避難しました。

最初に目に飛び込んできたのは、道路が波打った光景でした。運転中の車も上下に揺れ、電信柱の電線が揺れ、家々も揺れていました。私も真っすぐには歩けず、足ががくがくと震え、ただただ驚き、とても怖かったです。社長に、「犬はどこ？」と聞くと、社長は地震にびっくりして犬のことをすっかり忘れていたようで、慌てて探しに行くと、犬はテーブルの下に隠れて無事でした。すぐに保護して、犬は助かりました。

地震がおさまってから2～3分後に再び地震が起き、また避難すると、外にはたくさんの方が避難してきていました。社長が、「もしかしたら、コンビニに食べ物がなくなるかもしれないから、帰った方がいい。」と言うので、いつも通勤に使っている自転車で帰りました。途中、反対方向から来るたくさんの人たちと行き交いながら、何とか進みました。

コンビニに行ってみると、大行列でたくさんの客が押し寄せていました。食べ物がなくなっていて、パンもないし弁当もない、とても驚きました。ろう者は聞こえなくて不便ですよ。聞こえる人たちは何か情報が入るとすぐに並ぶことができますが、聞こえないと情報が入ってこないの、不便だけれど仕方がないと、とにかく家に帰りました。

家では、棚の皿やコップが落ちて散乱し、テレビの位置もずれ、ガラスも割れてしまっていました。すぐに、床に落ちている物を掃除しました。その日はなかなか寝られませんでした。余震で何度も起きてしまい、朝まで寝られませんでした。そのまま3日間自宅にいましたが、断水してガスも止まっていたので、スーパーへ行きました。2ℓの飲み物はなくなっていて500mlの飲み物があり、よかったと思ったのですが、一人2本までと決められていて、3本も4本も買うのは認められませんでした。2本は少ないですが、それを買って、やっと水分を摂ることができました。

とにかく3日間自宅にじっとして床に散らばった物を集めてきれいにしました。メールは3日間通じませんでした。次の日会社へ行きましたが、余震が続いては避難の繰り返しでした。とても大変だったことを思い出します。今でも忘れません。

東日本大震災から11年経ちテレビを見て、新しい家々が建っているところもあれば、まだまだの所もあって、現地に行きたいと思いました。第67回だったと思いますが、全国ろうあ者大会が宮城県仙台市で開かれる前に、友だちと1時間くらいレンタカーで回りました。津波の影響を受けて辺り一帯何もない所に、ぽつんと立った松を見て、「一本松、

よくがんばったね」と悲しい気持ちでした。次の日、全国ろうあ者大会に参加しました。そこで会った友人と、「地震の時、本当に怖かったね」と話しました。その後、東京に帰ると、テレビでは毎日のように大震災の映像が流れていて、大変だなあと思いました。

聞こえない人、聞こえる人、それぞれ不便があり同じと私は思っていたのですが、やはり差はあると感じます。例えば、避難所や食べ物等のお知らせを、聞こえる人たちは放送を聞いてすぐ並ぶことができるのです。聞こえない者として、大変悩んでいます。

協会で集まって、防災訓練の勉強をしたおかげでわかったことがあります。防災用品の準備や、避難場所の把握、まずは自分の命を守り、大丈夫だったら周りの人を助けるということを学びました。東日本大震災の被災地での困難や頑張った状況は、世界の人々からも注目されました。

秋田に帰って1年後の冬、暴風雪の時、突然停電になり、断水し、びっくりしました。隣の人に声をかけられ、集会所に一緒に行くとまわりの人たちは声で会話をしていて、「私は耳が聞こえません」と言うと、「そうだったの」と筆談具がない代わりに手のひらに指で書いて筆談をし、口の形がわかるように会話し理解してもらいました。うれしかったです。翌朝、電気も復旧し、水も出るようになり、家に帰りました。徹夜で全く寝られなかったので、帰宅出来て、やっとほっとして寝ることができました。一番怖かったです。

手話サークルや、聞こえる人たちとの交流に行って楽しんだり、秋田の状況や行き方がわかり、今は楽しんでいます。秋田に帰ってきて良かったという気持ちでいっぱいです。これからもずっと秋田で暮らせたらいいなと思いました。